

令和元（平成31）年度東京都立飛鳥高等学校全日制課程 学校運営連絡協議会報告書

1 組織

- (1) 都立飛鳥高等学校全日制課程 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長 総務国際交流部主任
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（キャリアガイダンス部担当）、主幹教諭（生徒部担当）、総務国際交流部主任
- (4) 協議委員の構成
保護者代表1名、地域代表1名、関係諸機関3名、近隣中学校長1名、学識経験者1名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月28日（金）15:30-16:50 内部委員7名、協議委員4名
学校長挨拶～委員委嘱、委員紹介、学校運営連絡協議会の概要説明、
学校経営報告および学校経営計画について、年間の予定および目標等についての説明、
意見交換、各関係機関からの情報提供等
 - 第2回 令和元年11月15日（金）15:30-16:50 内部委員7名、協議委員3名
学校長挨拶～学校経営計画中間報告、学校の状況についての中間報告、宿泊防災訓練報告、
学校評価アンケートの実施について、
 - 第3回 令和2年2月26日（水）15:30-16:30 内部委員7名、協議委員3名
校長より計画達成状況等説明、各分掌より年間まとめの報告、学校評価アンケート結果
について、意見交換、学校運営に対する提言

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
 - ア 令和元（平成31）年度学校経営計画の達成度
 - イ 学校の取り組みへの理解
 - ウ 学校運営について
学校の特色化、開かれた学校づくり、生活指導、進路指導、授業、特別活動、施設、設備、地域との連携等

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

対象	実施時期	対象者数
生徒	12月中旬	669名
保護者	12月中旬～12月下旬	669名
地域	12月中旬～1月上旬	50名
教職員	12月中旬	47名

(3) 主な評価項目

- ・生徒及び保護者アンケート
学校生活の満足度、学校の特色の理解、開かれた学校づくり、授業、生活指導、進路指導、保護者との連携、教育活動、健康管理、施設設備、広報活動、
ライフワークバランスの推進
- ・地域アンケート
生徒の学校生活、開かれた学校づくり、学校の特色化、教育活動、校地の整備、地域との連携、広報活動
- ・教員アンケート
学校運営、特別活動、生徒指導、授業、施設設備、広報活動、
ライフワークバランスの推進、その他

(4) 評価結果概要

今年度の数値目標でもある「飛鳥高校の取組に対する満足度目標（90%）」について、生徒は3人に2人が「飛鳥高校に入学してよかった（67%）」と答えており、保護者も「子供を飛鳥高校に入学させて良かったと思う（87%）」本校での生活は、生徒の将来にとって有益である（90%）」と肯定的にとらえている。この傾向は年々数値が上昇している。また、生徒、保護者、教員のすべてのグループにおいて、行事・部活動に対する肯定的意見が80%以上であった。

次に、質問項目の中で、肯定的な回答が比較的低かった項目は、以下の7項目であった。

- ・学校は、生徒に対して教育目標を周知している（52%）。
- ・校務の運営において、分掌間の連携が図られている（54%）。
- ・生徒の自己管理能力を育成できている（55%）。
- ・生徒は準備をして授業に臨んでいる（50%）。
- ・飛鳥高校のTwitterを見ている（23%）。
- ・飛鳥高校のホームページを見ている（54%）。
- ・校門前の掲示板は有効に活用されている（30%）。

更に、生徒・保護者・教職員の回答で隔たりがあったものについて、教員は授業の教材や教え方に工夫していると答える割合が89%以上であったが、同じ内容の設問に対して生徒の肯定的な意見は66%、保護者で授業がわかりやすく行われていると感じているのは70%であった。

家庭学習については、きちんと準備して授業にのぞんでいるとする生徒は、36%と昨年から変わっておらず、きちんとした目標を持たせ、学習への動機づけを図る必要がある。

自由意見からは、「飛鳥カバン」など身だしなみ指導についてと、昨年と同様に施設への改善要望が多かった。「トイレをきれいにしてほしい」、「校内が暗い」など、学校設備等に関する指摘、要望が複数あり、今後も継続的な課題と考える。

「ライフワークバランスの推進」については、教員と保護者がともに85%と周知されている。

(5) 意見交換、提言等

- ・良い方向に学校が変わってきている。ホームページの内容はよくなった。国際色豊かであると評価されている。
- ・地域との防災協力をお願いする。
- ・地元（北区）中学校の募集状況が今一つ伸び悩んでいる。校舎が古いことが一因と考えられるが、生徒の力を伸ばしていることを広くアピールしてほしい。

4 成果と課題

(1) 得られた成果

- ア 協議委員との話し合いの中で、学校の取り組みの成果が評価された、教員の授業改善とともに生徒の自学自習の時間をどう増やしていくか等の取り組み、効果を上げる方策を徹底していく。
- イ 生徒部を中心に学校全体で取り組んでいる頭髪指導、服装指導、遅刻指導や進路指導と履修指導の組織的運営等が一定の評価を受けた。今後も改善しながら指導を継続していく。
- ウ 宿泊防災訓練や国際交流について地域との連携の準備を進めることができた。次年度はフランス学園との連携を図っていく。

(2) 明らかとなった課題

- ア 生徒募集に関して、本校の特色をさらにもっと学校ホームページでアピールする必

要があることを指摘された。

- イ 学習指導の改善、学力向上が最大の課題である。教員の研修体制構築、教科会を中心とした組織的な授業改善を継続していく。
- ウ 国際交流や奉仕体験活動、防災活動等について、地域中学校や地域との連携の必要性の助言いただいた。今後も地域への広報、協力など積極的に広げていく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ア ホームページの更新を迅速、積極的に学校の様子を地域に知らせていく。
- イ 地域の方々や地域の機関・施設との連携を強化し、地域に応援される学校作りを行い、地域からの受検者の増加を図る。
- ウ 学校説明会、学校見学会、授業公開、公開講座を充実させる。入学者選抜受検応募者増を目指す。
- エ アメリカやフランスの高校との交流事業を発展させ、本校の特色である国際理解教育をさらに推進する。

(2) 学習指導

- ア 学力検査や「学力スタンダード」による学力調査、「生徒による授業評価」等の結果を教科内で分析し、教科ごとの到達目標を設定し、成果を見て、組織的に授業力向上を図っていく。
- イ ステップアップ指導と家庭学習時間を確保するための様々な方策を実施していく。
- ウ 校内研修、相互授業参観等を活用して授業改善に取り組むとともに生徒の自主学習を推進していく。

(3) 特別活動

- ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通して、生徒が自己の役割を自覚し、主体的に活動できるよう指導する。
- イ 国際理解を深め、進んで平和な社会の実現に貢献することができるよう、創意工夫したオリンピック・パラリンピック教育を進める。
- ウ 部活動の参加を推進し、生徒の能力・意欲・感受性を伸長させ、社会人として必要な、互いに協力して忍耐強く努力し責任を果たす力を育成する。指導計画に基づき体罰根絶の取組を行う。

(4) 生活指導

- ア 校門指導や頭髪指導などを通して、基本的な生活習慣を確立させ、身だしなみやルール・時間を守るなど、社会人としての常識や規範意識を身に付けさせる。
- イ 未然防止や予防的指導を充実させ、生徒が安心・安全に充実した学校生活を送るための指導を推進する。
- ウ 奉仕体験活動をはじめ、多様な社会貢献活動を、家庭や関係機関と連携して行う。

(5) 進路指導

- ア キャリア教育の全体計画に基づき計画的・組織的な進路指導を行う。
- イ 実力テストを有効に活用し、事前事後指導や結果の分析を行い、生徒の進路実現に向けた指導に活用する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 3人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 7人

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない
3	0	0	0	0	0